様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23 年　7 月　7 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～　2009
課題番号：20791732
研究課題名（和文）
　　祖父母教育に向けた孫育て手帳の開発と評価
研究課題名（英文）
　　Development and evaluation of a grandchild care notebook for grandparent education

研究代表者
　　角川　志穂（SUMIKAWA　SHIHO）
　　自治医科大学・看護学部・講師
　　研究者番号：70325918

研究成果の概要（和文）：
　本研究は祖父母教育の一環として、孫育てに関する基礎的知識を盛りこんだ「孫育て手帳」を開発し、その内容と活用の評価を行うものである。孫育て手帳の作成にあたり、祖父母を対象としたニーズ調査を行った。その結果、約 9 割の祖父母が孫育て手帳の活用を希望しており、特に乳幼児期の安全に関する内容についてニーズが高かった。ニーズ調査の結果と、より孫育てをイメージ化しやすいように、育児に携わっている助産師や子育て中の母親の意見を参考にしながら、妊娠期から幼児期に関する知識を盛り込んだ孫育て手帳の素案を作成した。初孫を出産予定の祖父母に孫育て手帳の素案を配布し、手帳の内容および読みやすさやデザイン等について質問紙調査にて意見を収集した。意見をもとに、加筆および修正を行い、約 70 ページにわたる手帳を完成させた。完成した手帳を活用した祖父母からは、昔と現代の育児の違いを知ることができ、子どもの母親と一緒に手帳を読むことで育児についての知識を共有することができた、といった肯定的な意見が得られた。今後、孫育て手帳の活用を広めていくなかで、さらなる内容の精査を行い、より祖父母や子どもの両親のニーズに合った手帳にしていきたいと考える。

研究成果の概要（英文）：
　The objective of the present study was to develop a “grandchild care notebook” that contains basic knowledge on care for grandchildren and to evaluate its contents and use as part of grandparent education. In order to create the notebook, a survey on the needs of grandparents was conducted. The results showed that approximately 90% of grandparents wished to use a grandchild care notebook, and strong needs were indicated for contents related to safety during infancy in particular. A draft grandchild care notebook containing information on pregnancy through infancy was created based on the results of the survey on needs, and in order to facilitate the visualization of care for grandchildren, also on the opinions of midwives involved in childcare as well as mothers providing childcare. The draft grandchild care notebook was distributed to soon-to-be grandparents, and their opinions were collected by conducting a questionnaire survey on notebook contents, readability, design, and other items. By adding and revising contents based on their opinions, a notebook approximately 70 pages in length was completed. Positive opinions were obtained from the grandparents who used the completed notebook, such as “I was able to understand the differences in childcare between the past and the present, and by reading the notebook together with the grandchild’s mother I was able to share knowledge on childcare”. We plan to further refine the contents of the notebook while expanding its use, so that it further meets the needs of grandparents as well as the parents of the grandchild.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学
キーワード：孫育て，教育，祖父母

１．研究開始当初の背景

近年、子育て支援のキーパーソンとして、夫に焦点が当てられており、夫が育児に参加しやすいように、育児休業の取得を働きかけるといった施策が各県で行われている。しかし、その夫の育児休業取得率はいまだ１割にも満たない状況であり、子どもの母親の育児負担は軽減されていない状況である。

子どもの母親が育児の相談相手に祖父母を挙げている者は約７割であり、育児において祖父母が重要な役割を担っている。しかし、先行研究において約７割の祖母は育児に参加する過程で悩みや不安を抱えており、約５割の祖母が子どもの母親と育児の方針に相違や戸惑いを感じていた。また、約３割の母親が妊娠中から祖母と育児についての考えが異なることでストレスを感じていた。この背景には祖父母の育児時代と現代で、育児についての知識が変化してきていることが関係していた。そのため、育児が始まる前に、家族内で育児について共通した知識が持てるような資料を開発することで、互いのストレスや不安の緩和につながると考える。

現在、孫育てに関する書籍は徐々に出版されてきているが、孫育てに関心のある祖父母だけではなく、すべての祖父母に配布される母子手帳のようなものは見当たらない。そこで、本研究では孫育て手帳の開発を行い、孫の妊娠が確定した時点で、すべての祖父母に配布できるような冊子を開発していきたいと考える。

２．研究の目的

孫育てに関わるすべての祖父母に、祖父母教育の一環として、妊娠中から幼児期までの基礎的知識や祖父母の役割について盛りこんだ『孫育て手帳』を開発し、その内容と活用の評価を行う。具体的な目的は以下の２点である。

①孫育てに関する知識・技術・態度（役割）として、祖父母が求めている内容を明らかにする。

②祖父母のニーズをもとに、孫育て手帳の素案を作成し、内容と活用方法について評価を得る。

３．研究の方法

１）岩手県内の２市町村にて、妊婦あるいは乳幼児を持つ祖父母を対象に、孫育てに関する知識を盛り込んだ孫育て手帳の必要性と、盛り込む内容について、独自に作成した質問紙調査を行う。

２）祖父母へのニーズ調査の結果をもとに、助産師や子育て中の母親の意見を得ながら、孫育て手帳の素案を作成する。手帳の素案を初孫の出産を間近に控えた祖父母に配布し、自宅で読んで頂き、手帳のサイズや文字の見やすさ、内容の読みやすさ、内容の理解度、孫育て日記への感想等について、質問紙にて意見を収集する。その意見をもとに修正をはかり、最終的に手帳を完成させる。

４．研究成果

１）岩手県内の２市町村にある産婦人科医院および保健センターのそれぞれ２施設にて、健診の目的で来訪した母親に研究の趣旨を説明し、身近に住んでいる祖父母に質問紙を渡して頂きたい旨、文書を用いて説明し配布した。母親への配布にあたり、事前に各施設

の責任者に本研究の趣旨を説明し、各施設の助産師あるいは保健師の協力を得た。母親およびその祖父母の研究協力はあくまでも任意であり、質問紙に切手を添付した封筒をつけ、郵送をもって同意を得ることとした。質問紙の内容は、孫育てに関する知識について、現存する母子手帳の内容をもとに、孫育て手帳の利用希望度等の項目を加え、独自に作成した。

573 部配布し、216 名から回答が得られ、回答率は 37.7%であった。孫育て手帳の利用希望者は 188 名(87%)と非常に高く、手帳に盛り込んでほしい内容としては“子どもの注意したい身体の症状”が 201 名(93%)ともっとも多く、次いで“乳幼児突然死症候群の予防”、“乳幼児の安全”であつた。乳幼児期の知識に関する希望が多く、妊娠期の知識については全体として少なかった。このことは、祖父母は妊娠期よりも育児期に関わりが大きいこと、また昔と現代の育児の違いについて知りたいという祖父母の思いが関係していると推察された。就学前の孫がいる祖父母は 159 名(73.6%)と大半を占めていたが、孫と同居している者は 53 名(24.5%)と少ない結果であった。孫育てにあたり、事前に育児に関する学習をしていた祖父母は 31 名(14.4%)と少なく、その中で子どもの母親と育児について考え方の相違があった者は 80 名(37%)であった。これらの結果から、孫育て手帳を祖父母が活用することは孫育てに向けて知識の習得につながり、子どもの母親との認識の違いが解消され、手帳の作成は意義あるものといえる。

今回の調査結果から、約 9 割の祖父母が孫育て手帳の利用を希望していることがわかり、育児経験のある祖父母ではあるが、育児に関する知識について知りたいというニーズが高いことがわかり、手帳の開発は必要であることが明らかとなった。

２）ニーズ調査の結果をもとに、孫育て手帳の素案を作成した。素案の作成には育児の専門家である助産師と、乳児を育てている母親のアイディアを参考にし、育児の 1 日の様子や離乳食の内容などがイメージ化しやすいよう、内容やイラストの工夫をした。文字の大きさは祖父母の対象年齢から 12 フォント以上とし、手帳のサイズは持ち運びがしやすいＢ５判とした。以下、具体的に内容の説明を行う。大項目として、まず「祖父母になること」とし、先行研究の結果を踏まえ、祖父母の役割について、妊娠中の準備や子どもの両親との関わり方について説明した。次に、「妊娠について知ってほしいこと」では、孫育てセミナーで祖父母から質問の多い妊婦の食事や休息、運動について盛り込み、妊娠中の異常（貧血,切迫流早産,妊娠高血圧症候群,妊娠糖尿病）について、胎児への影響を踏まえ記載した。「出産について」「産後のお母さんのからだとこころの変化について」では、現代の出産方法としてフリースタイル出産やカンガルーケアなどの知識を盛り込んだ。また、産後はホルモンの変動からマタニティーブルーや産後うつが多くなっている現状を、イラストを用いて分かりやすいように記載し、産後の母親との接し方について留意点を加えた。「赤ちゃんが生まれてから 3～4 ヶ月までの育児について」では、乳児の 1 日の生活と、家族それぞれの役割について例を挙げ、イメージ化しやすいように工夫した。また、乳児期に質問や不安の多い項目（湿疹やしゃっくり,くしゃみへの対応）について、写真を加えて具体的に説明した。「赤ちゃんで気をつけたいこと」では、新生児突然死症候群や揺さぶられっこ症候群について記載し、昔の育児との違いを述べた。「昔と今の子育ての違い」では、祖父母の育児時代と現代の育児で、知識が変化している内容（白湯やベビーパウダー,おしゃぶりの必要性や抱き癖,日光浴の考え方など）を Q&A 方式で記載した。「生後 5 ヶ月から 1 歳までの育児」では、離乳食の開始時期が変わってきていること、また子どもの歯の健康について、予防法や歯磨きの方法をポイントを挙げ、説明した。「生後 1 歳から 3 歳の育児」では、ニーズ調査で最も要望が高かった乳幼児の健康や安全について、症状（熱が出たとき,下痢をしたとき，吐いたとき）や状態（異物を飲み込んだとき,頭を打ったとき,胸やおなかを強打したとき）に合わせて具体的な対応策を記載した。「子どもとの遊び」では、手遊びやわらべ唄、絵本の紹介などを盛り込み、すぐに実践できるようにイラストを取り入れた。育児の知識だけではなく、孫や子どもの両親へのメッセージを書き込める欄や、写真を添付する欄を記念日ごとに設け、思い出づくりができるようにした。最終ページには子どもの緊急時にすぐに連絡できるよう、必要な連絡先として、子どもの父親と母親、かかりつけの産婦人科医院、小児科医院、小児救急電話相談の番号を載せ、各自で書き込めるようにした。

素案の完成後、初孫の出産を間近に控えた複数の祖父母と、助産師に配布し、わかりにくい用語や内容はないか、説明文に齟齬はないかなどの意見をもらい、素案を加筆、修正し、約 70 ページにわたる手帳を完成した。

完成した手帳を活用した祖父母の評価として、自分たちの育児と現代の育児の違いについて根拠をもとに知ることができた,子どもの母親と一緒に手帳を見ることで同じ知識のもとで育児に関わることができた,孫のためにメッセージを書きとめ、将来孫に渡し

たい、といった意見が得られた。内容については幼児の発達やしつけ等、さらなる内容を希望される方もいた。今後、母子手帳の交付といった機会を活用して、できるかぎりすべての祖父母に手帳を配布していきたいと考える。また、活用して頂くなかで、さらなる改編を行い、より対象者のニーズに合った手帳にしていきたいと考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
角川志穂、子育て支援に向けた祖父母学級導入の検討、母性衛生、査読有、50号2巻、2009、300-309

〔学会発表〕（計３件）
①角川志穂、孫育てにおける祖父母の不安の実態－孫育てセミナーを開催して－、第 49 回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集、49 巻 3 号、2008、232
②角川志穂、　下川玉枝、赤ちゃん相談の実態と母親への育児サポートの在り方、第 42 回岩手県母性衛生学会総会並びに学術講演会抄録集、2008、14
③角川志穂、孫育て手帳の開発に対する祖父母のニーズ、第 50 回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集、2009、128

６．研究組織
(1)研究代表者
角川　志穂（SUMIKAWA　SHIHO）
自治医科大学・看護学部・講師
研究者番号：70325918